

製品名: CALML5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07859**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CALML5
別名	CALML5; CLSP; Calmodulin-like protein 5; Calmodulin-like skin protein
遺伝子 ID	51806.0
SwissProt ID	Q9NZT1
免疫原	抗血清はヒト CALML5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 96-146

背景

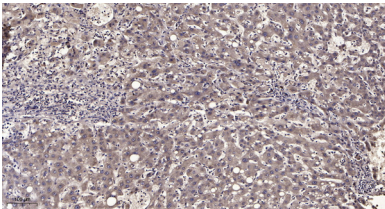
この遺伝子は、表皮で発現する新規カルシウム結合タンパク質をコードし、カルシウム結合タンパク質のカルモジュリンファミリーに関連します。組換えタンパク質を用いた機能解析により、この遺伝子はカルシウムと結合し、結合時に構造変化を起こすことが実

証されています。豊富な発現は再構成表皮でのみ検出され、分化中のケラチノサイトに限定されています。さらに、この遺伝子は、ケラチノサイトの終末分化において重要な酵素であることが示されているトランスグルタミナーゼ 3 と結合することができます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: カルシウムに結合する。ケラチノサイトの終末分化に関与している可能性がある。類似性: 4 つの EF ハンドドメインを含む。サブユニット: トランスグルタミナーゼ 3 と結合する。組織特異性: 特に表皮で豊富に発現し、その発現はケラチノサイトの分化に直接関連しています。肺での発現は非常に低い。,

研究分野

カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、卵母細胞減数分裂、血管平滑筋収縮、長期増強、神経栄養因子、嗅覚伝達、インスリン受容体、GnRH、メラニン形成、アルツハイマー病、神経膠腫、

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。